

# 山崎高等学校 同窓会便り

第49号

山崎高等学校に縁のある、「ひと・こと・もの」をつなぐ年会誌



ごあいさつ

山崎高等学校同窓会

会長 秋田達三



霜寒の季節を迎え、実粟の山々は紅や黄に染まり、あたかも山が燃えているような景色を呈しています。

さて、今年の日本は、国難の年でもありました。東日本大震災、福島原発事故に始まり、加えて台風十二号、十五号の強風と集中豪雨で多くの亡くなられた方々、今なお仮設住宅でご苦労されておられる皆様に心よりお見舞い申し上げます。

民主党も自民党も今こそ相協力して政治の力で迅速な復興を成し遂げて欲しいと思います。

復興構想会議長の五百旗頭真先生が「悲惨のなかの希望」と題して政府や国民に対し、復興構想を訴々と述べておられます。政府の対応の遅れを指摘し「財政当局、出費おそれるな」と題しての記事が新聞にも出ていました。

私も全く同感です。被災された方々の心に「何もかも一瞬にして失ったが日本の国に生まれて良かった。尋常の生活に戻れてうれしい」という気持ち湧いてこそ真の復興の始まりだと思ふのです。出費をおそれず、勇気を持って希望の光を政府が灯すべきではないでしょうか。

嬉しいことに本校の生徒達は元気に、そして立派に成長しています。生徒会長を中心に数名の生徒達が、東北へボランティアで兵庫県下の高校生としては一番早く応援に参加しました。また、少し寂しくなった商店街に「活気を取り戻したい」、人づくり事業の「基礎を学びたい」と「山高街の駅」を開設し、地元の商工会や市民との交流を始めました。

大学進学については、特進科を設け、目指す大学に合格すべく夏休み中も特訓を受けています。師弟一丸となって勉学に励んでいます。

一方、部活動では、男子ソフトボール部と男子バレーボール部が近畿大会に出場しました。ソフトボール部は雨で決勝戦が出来ず、複数校の優勝でありましたが、錦を飾りました。国体での活躍が期待されています。

全国的な少子化の流れの中で、寂しいことに山高も一学年七クラスになり、以前に比べ生徒数が減少しました。

愈々寒さ厳しい冬を迎えます。同窓会員諸氏の平穏とご健康を念じてご挨拶と致します。



# 日々体験日々充実日々成長

校長 宮本 茂



同窓会員の皆様には、母校の教育活動にひとかたならぬご理解とご支援を賜り心より感謝申し上げます。

人の心を揺り動かせ輝かせる教育活動とは、生徒一人ひとりがもつ豊かな心をより強固に、より確かなものにしていくための教育であり、このことが重要であると日々教職員とともに学校教育を進めています。

表題の言葉は、一貫して変わることのない教育活動の目標でもあります。

昨年「山高街の駅」をオープンし、生徒会が中心となり毎月三回開催していますが、生徒の発想は実に斬新です。学年学科の取り組みの様子、クラブ活動の活躍、専門学科の展示販売、教科発表、他校等の交流等々、内容が盛り沢山です。企画から運営は、目を見張る力を発揮しています。特筆すべきは地域の方々にも親しまれていることです。この八月には県庁で神戸店を開催し、山高の卒業生にも喜んでいただきました。

マスクにも取り上げられましたが、三月十一日に発生した東北大地震後、ボランティアとして本

校の生徒四名が兵庫県の高校生で一番最初に参加、言葉百よりも一つの実践が人々の心を揺り動かす共感を得る結果となりました。

また、九月二十八・二十九日に実施しました体育大会においても多くの「心」を垣間見ることができました。それは、仲間を信じ助け合う心、最後まで頑張りとおす心、勝敗とは別に頑張ったことを互いに讃え合う心です。生徒の成長を強く印象付けられました。

一〇四年目の山高の教育は、竹のようにしなやかさがあると確信しています。学校教育は「茎」であり「節」であり、竹を丈夫に高く大きく成長させる働きをしています。「夢叶う山高」「地域に感謝」のスローガンと共に邁進いたします。

今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ようこそ「同窓会だより」

シリーズ

## 「懐かしき我が恩師」

## 回想の記

羽白 逸生

七十八歳で教職の道に区切りをつけた私の退職を期に同期生とも言える十六回生六十六歳の仲間たちと、本年神戸で語り合う機会を持つてもらった。

私の教師の振り出しは、大学卒業と同時に世話になった山崎高校神戸分校で、三年間の勤務の後、四年目に山崎本校に迎えてもらい、昭和三十九年までの四年間の計七年間が山高生活で、担当学年の卒業と同時に転勤することになった。そんな中で、分校一年目が終る時の、先輩先生を送った離任式の



際の心境（北国の春のゆく日 俺たちだけがしょんぼり見てた「赤いハンカチ」のみが、淋しいものだった）が、それ以降の学校生活は何処でも、今年もこの学校に残れて良かった、昨年度なしえなかったことは、今年度必ず取り戻す、を課題として、教科指導、部活動等手当たり次第に挑戦した。

特に、山高での最後の学年の二年生の時にヒットした舟木一夫の「学園広場」（涙流した友もある 愉快にさわいだこともある）、三年生で、「高校三年生」（泣いた日もある うらんだことも）をクラス仲間の応援歌として、機会あるごとに口にした。以後、特に「学園広場」（学園広場は青春広場 夢と希望のある広場）は、後々の転任後の学校でも、行事のファイナル

イベントなどで合唱したことだった。それが、若さあふれる生徒、学生たちと意気投合できた瞬間を忘れないためだったようにも思っている。

こうして五十余年間、公立高校、私立専門学校の九校に及ぶ学校異動の中で、「環境が人を作る」ということの大切さを痛感し、教師として、いかに人的環境を整えてやれるかを大きな使命としての行脚を続けた。そのため、「学び舎を高きにぞおけ」、「志は高く豊かに」など詩人の言葉にも耳を傾け、「人を学ばさんとすれば、自ら学ばねばならず、人を燃やさんとすれば自ら燃えねばならない」等々をモットーにした。

ところで、私も生きて行く者の課題は、年齢の如何を問わず、これまでどんな人生を歩んできたか、さらに今後はどのような生き方をし、そのために、今ここで自分は何をしようとするのか、何が出来るのかの追求。肝心なことは、過去でも未来でもなく、「一期一会」「日々これ好日」今日に全てを込める積極性、Only Today の意気込み。

私の心のハイマート（ふるさと）

山崎、教師として育て、もらった第二の母校とも言うべき山高。間もなく傘寿を迎える齢となり、ますます愛着、教え子の皆さんに寄せる想いは強い。

サミュエル・ウルマンの言葉を借りれば、「青春とは若き精神の中にある。齢を重ねただけで、人は老いない。夢を失った時にはじめて老いる」。

再度、裕次郎の唄の一節を借りるなら、「純で行こうぜ 愛で行こうぜ 生きている限りは青春だ」「夢だろうとうつつだろうと わが人生に悔いはない」の心情を持ち続けての生涯でありたい。



羽白先生を囲んで



山崎高等学校

人彩

## 古希を過ぎて

大阪産業大学名誉教授

第10回生 前田 眞正



筆者は、平成二十二年三月に古希を迎えた。母校を巣立って、すでに長年月がたっており、すでに逝去された同級生も何人か聞いている。かなり人生を生きてきたが、最近では長寿社会であり、まだまだ

若い、もうひと花さかしてはという意見も聞かれ、人生の次のステージへ思いをいたす今日この頃である。

筆者の最近のトピックスを、二上げてみると、①日本設計工学会より推挙されて、平成二十三年五月二十七日の総会で日本設計工学会名誉会員に決定し、同日贈証式があったことであり、平成二十二年八月五日に日本図学会名誉会員になったこととあわせて、心より喜ばしいできごとである。②大阪産業大学前田眞正名誉教授の名誉会員（日本図学会・日本設計工学会）と古希を祝う会が、平成二十三年十月二日にヒルトン大阪において、盛会に楽しく開催されたこと。これは、六百名におよぶ卒業生有志を発起人幹事とするもので、感激致しました。

思えば、母校を巣立って、随分遠くへ来たものである。昭和五十年四月に大阪産業大学工学部に着任して、専任三十三年、客員一年、非常勤一年で七十歳まで通算三十五年勤務して、平成二十年七月二十五日に名誉教授となったわけであるが、すでに卒業生は六百名に達している。着任以来、主と

して交通機械工学科機械設計工学研究室において、図学および機械設計学の分野で教育と研究に精励してきた結果、日本図学会と日本設計工学会で名誉会員となったことは身に余る光栄である。日本図学会では昭和五十二年入会であり、最近二十年來の学会の国際化に伴い、国際図学会に連続十一回出席して、論文発表二十二報、日中国学教育研究国際会議に七回出席して、論文発表六報、CADDN 国際会議に三回出席して論文発表六報となり、あわせて図学関連国際会議に二十一回出席して、総計三十四報の論文を発表して、国際化に尽くしたことが際立っている。日本設計工学会では、昭和五十年に入会し、長年にわたり機械設計学などの教育と研究に励むと共に商議員十六年、評議員六年、庶務幹事、会計幹事など歴任が主たる推挙の理由である。

筆者は、工学博士でもあり、非常勤講師として、大阪大学は六十歳まで十六年勤務し、大阪芸術大学は七十歳まで十五年勤務し、いずれも図学を担当している。幸いに健康で、何かと幸運に恵まれたことや戦後六十余年余り平和な時

代を生きたことに心より感謝する次第である。

七十歳古希を過ぎ、いよいよこれからが人生の充実期である。一般に年をとると、病氣、貧乏、孤独の三つがすさまじく迫ってくるといわれるが、これらを払いのけながら「よく生を樂しむ者はやつれず」の精神で過ごし、どこまで人生を有意義に前進できるかということが大事であり、楽しくもまた厳しい前途が待っているといえよう。筆者の趣味は、詩吟、読書、落語鑑賞、映画鑑賞、散歩などであるが、現在は定年後の自由、解放感を樂しんでいる状態である。これから、さらに有意義な人生を送るために、体に注意しながら、人生長期戦の構えで、あれこれと模索している状態である。同級生や友人達とも人生についてよく語り合っただろうかと思ったり、これからいかに充実した人生を送るかなどと考える今日この頃である。

最近の便りでは、安黒義郎先生などの恩師もお元気のご様子で、誠にうれしい限りです。終わりに母校の同級生の皆様のご健闘と母校のご発展を心よりお祈り致します。



がんばってます  
新・社会人

思い出す高校生活…  
そして、新しい日々を通して。



郵便局勤務  
第63回生  
梅岡敦子さん

私が山崎高校を卒業して、あっという間の半年が過ぎました。楽しい友達に囲まれての三年間の山崎高校生活。在学中は嫌な事もありましたが、文化発表会・体育大会・修学旅行；等、今では楽しい思い出ばかりです。二年生後半から進路について考えるようになったのですが、目的意識もなく進学するのならば、今まで迷惑をかけてきた両親に少しでも恩返しが出来るようにと就職の道を選びました。無事に内定し四月から社会人としての一歩を踏み出し、今、郵便局で働いています。就職をすることは

自分で想像していたものより、とても厳しかったです。毎日暑い中での補習や面接練習は本当に辛かったです。でもそれ乗り越えてきたからこそ今につながっているのだから、支えて下さった先生方、友達に感謝しています。

四月から奈良での一ヶ月の研修がありました。家を一ヶ月半も離れたことのない私は、不安でいっぱいでした。毎日勉強づくしの研修で、他府県からの同期の人達も初対面で人見知りの私にとってはすごく辛かったです。そして、慣れない事・初めて耳にする言葉ばかりでテストが何度もあって大変でした。でも、自分でもびっくりするくらい周りの人達に助けを求め、お互いに励まし合い助け合っている研修期間を過ごす事が出来ました。新入社員として、とても勉強になる研修だったし、同期の人達との出会いに感謝しています。

最後に在校生の皆さん、一度しかない高校生活を悔いのないようになに楽しんで下さい。進路の事で悩みを抱えているかもしれませんが、今の時間を大切にして、一日一日を前向きに頑張ってください。

がんばってます  
大学生

高知での出会いと、  
在校生へのメッセージ。

高知工科大学  
第63回生  
前川奨太さん



三年間通い続けた山崎高校を卒業し、大学に進学してからは半年が経ちました。私は今、高知県立高知工科大学に通っています。大学では、授業の仕方や内容の違い、他府県の人たちとの言葉や食文化の違いなど、今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではないと知り、日々驚かされています。しかし、同じ目標を持っている仲間とともに切磋琢磨して学んでいくことはとても楽しく、夢を叶えるのにはとてもいい環境だと思っています。生活面では、初めての一人暮らしで、今までは誰かがしてくれていたことを自分でしてみると、その大変さを実感し、

これまで掃除や洗濯などをしてくれていた家族のありがたさを感じました。これからは支えてくれる人々に感謝しながら大学生活を送っていききたいです。

高校生活を振り返ってみると、その時は何も感じませんでしたが、本当に楽しい毎日を過ごせたと思います。修学旅行でグアムへ行き、きれいな景色を見たり、海で泳いだり、友達と夜遅くまで話したりしました。文化祭ではモザイク壁画を作ったり、朝や放課後に歌の練習をしたり、三年のときにはお化け屋敷もしました。その他にも、しんどかった体育祭やマラソン大会、長時間のバス通学、友達とはしゃいだ休み時間など、今となってはそれらすべてが思い出し出です。これらの思い出とそこで出会った友達をこれからも大事にしていきたいです。

最後に在校生のみなさん、高校の三年間は長いようであつという間です。この三年間で自分が進みたい道を決めて、その道に進めるように一生懸命頑張ってください。そして時に友達と語り合ったり遊び、時に親に感謝しながら、後悔のない高校生活を送ってください。

# 同窓生の庭

各地で開催された同窓会の感想 & おたよりをご紹介します

## 「古希記念同窓会」を終えて

第11回生 村上絃揚

全国に広がる同窓生の皆さんによる、情報、企画のコーナーです。  
おたよりもお待ちしております！

昭和三十四年春卒業した十一期生は、本年と来年春に古希を迎える年齢である。

二年ごとに回り持ちで開催してきた同窓会も、今回は十一月五日（金）に、姫路キャッスルホテル・葵の間で、一部と二部に分けて実施し、「古希記念同窓会」となった。十一時三十分から受付をはじめ、恩師山極徳之先生を迎え、先に集合写真を撮影した。ここで丁度正午となったため、早速に同窓会開始となる。開会宣言の後、物故者黙祷となった。既に二年前に三十四名他界しており、続いて本日まで七名が黄泉国へと旅立った。私事だが、自分は今後も今後二十年

も生きられないだろう。無心の黙祷後、寂しくなった。

次に市内在住の上田明君が歓迎の挨拶を行い、私が懐かしの山崎高校の現況を紹介した。現宮本茂校長より提供の資料で、来年度入試から実施の「複数志願制度」の説明を行い、母校志願の奨励をお願いした。続いて、合併後の宍粟市の現況を、現福島斉議員が簡潔に述べた。上寺の「ツキノワグマ」出没情報は印象的であった。

乾杯は山極先生のご発声だったが、高齢ながら矍鑠とした姿勢は敬服に値する。

宴会に続いて三宅宣子さんの司会で二部が始まる。スピーチでは、

「七十代をどう生きるか」には、近くから「残る命は少ないぞ、社会貢献」と声が聞こえた。更に余興は「白鷺の城」の詩吟と舞の披露と続いた。一連の余興後に全員で生徒会歌の斉唱、そして幹事長の糸口功君のお別れの言葉、次いで万歳三唱で閉会となった。

全員が、残る人生を今後も精一杯生き抜こうという決意が見え隠れする、そんな貴重な古希の同窓会であった。



姫路キャッスルホテルにて（平成22年11月5日）



## 振り返ってみると

第9回生 小林章宏

平成二十三年十月十日、ホテル日航姫路に予想をこえる六十八名が集い、午前十一時に始まった同窓会、三次会が終わったのは、午後七時三十分、時の過ぎるのも忘れ感動的で、心地よい余韻の残るすばらしい会となりました。

気心の知れた人生の友である同級生が相集い、残された余生を励まし助け合って生きることが出来れば、こんな幸せはないと思つて企画した同窓会でしたが期待以上でした。

昭和三十二年三月、山崎高校九回生として卒業、以来五十五年、現在七十三歳、まだ現役で頑張っ



ている人、地域の中で社会に貢献している人、趣味を生かしてボランティア活動に励んでいる人等々、まだまだ社会の一員として頑張っている姿に安堵感と頼もしさを感じました。一方、参加できなかった仲間の中には体調不良や、家族の看護などがあり、そんな友と会えなかったのが残念で悔しさも感じます。

二年後の再会を約し、硬い握手のうちに会を終えました。

## 思いを新たに

第18回生 中川俊夫

平成二十三年一月三日の十一時より、山崎町伊沢の里にて、第十八回山崎高等学校同窓会を開催いたしました。

久しぶりの顔が五十五名集い、三時間程お互いの近況を話したり、昔話に花咲いたり、本当に楽しい一刻でありました。それぞれ六十二〜六十三才になっており、四十何年ぶりだなという人もありまして、お互い年をとったなという感想でありました。

これからも五年毎に開催しようと言う事になりました。



\*少しでも多くの同窓会が開催されると嬉しく思います\*

information

### 回生の同窓会への助成金

回生全体の同窓会を開催される際は、2万円の助成をします。開催された同窓会の様子の記事(400字程度)に、写真を添えて、幹事の方は事務局までご連絡ください。

また、「開催予定の日時の連絡」に同窓会便り(毎年11月発行)の紙面をご利用いただいても結構です。



## 「兵庫県立山崎高等学校同窓会阪神支部（仮称）」の設立に向けて

阪神地区には当高校の同窓生が多数おられ、学年同窓会などで学年だけではなく幅広い同窓生同志の繋がりが必要ではないかとの声がよく聞かれます。また、繋がり、絆を深めることにより、仕事や種々の活動がスムーズに進むことも多いのではないかと感じています。

そこで、私たち数名は本部の要望もあり、阪神地区に居住または勤務されている同窓生のこれまで以上の親睦、交流を図ることを目的とした「兵庫県立山崎高等学校同窓会阪神支部（仮称）」の設立に向けて準備を進めております。

同支部の活動内容としましては講演会・食事会などの懇親会の開催、趣味・スポーツ・ボランティア活動などの分科会活動、そして新卒者などの後輩の激励活動と多岐にわたるものになりたいと考えております。

しかし、まだ同支部の設立に向け有志数人が立ち上がったところで、何も形になっていない

のが現状です。そこで、まずは支部設立の前段階として「支部設立発起人会」を発足させ、支部の体制や会則・各行事など具体的な内容を決めていきたいと考えております。とは言ってもあまり堅苦しく考えず、とにかく「一度集まろう」程度からスタートしたいと思っております。

現在約十数名の方々に発起人を依頼させていただいておりますが、もっと幅広い方々にお集まりいただきたいので、ご尽力いただける同窓生の方は、ぜひ発起人会への参加をお願いいたします。各学年に1～3名が立候補していただければ、連絡や調整もスムーズに出来ると思います。参加していただける方は同窓会本部事務局までご連絡ください。同窓生の皆様からのご連絡を有志一同心からお待ちしております。

早期に支部を設立して活動が開始できればと考えておりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

### 「支部設立発起人会」準備会

- ・井上裕崇…昭和36年3月（13回生）
- ・山下孝二・有尾初美・北尾繁子・花本秀生…昭和39年3月（16回生）
- ・小林俊明 昭和41年3月（18回生）
- ・中野景介・岡田泰介…昭和44年3月（21回生）



## おぐら食堂

第52回生

春名 大輔

（京都市在住）

さつき商店街を西へと抜けた交差点にそのお店はある。紺地で白抜き文字で書かれた屋号の暖簾が揺れていたように思う。

女子高生だった妻は、学校の帰り道にそのお店でよくかき氷を食べていたという。一方、私はと言うと、学校の近くに出来たばかりのコンビニエンスストアでスナック菓子とジュースを買い、友人たちが待つ麻雀部屋へ毎日のように通っていた。そのお店を私が初めて訪れたのは学生生活を終え、働くようになってからだった。

水槽が少し狭そうな金魚たち。冷蔵庫には飲んだ事もないような瓶ジュース。壁に貼られたのはイラスト付きのメニュー群。

豚玉とチャンポン（焼きそばうどん）を注文する。待つ間、店主が調理するのを眺めたり、テレビを観たり、新聞を読んだり。セルフサービスの冷蔵庫からはビールなんかも拝借してみる。そしておでんの豆腐に手が伸びる。絹ごしだろうか。笑顔が出る。運ばれて来たお好み焼きの上にはマヨネーズで書かれた七重マル模様で心も踊る。「ごちそうさまでした」と店を出る。

緩やかな坂から昇ってくる風が心地よい。

ああ、「おぐら食堂」に行きたい。



# 全国各地に広がっています、 同窓生の輪

その歴史の源を、1907年の山崎町立技芸専修女学校創立に遡る山崎高校。卒業生の数は2万7千人を超え、そのネットワークは全国46都道府県に広がり、東京や〇〇などでは、〇〇会のような同窓会組織として、定期的に交流会などを実施している地域もあります。

そこで今回は卒業生の皆様に、各地で活躍されている同窓生の代表として、北海道と沖縄県に在住の卒業生にお話を伺いました。

## 北海道札幌市在住の塚本武司さん（第14回生）

塚本さんは大学時代からの東京生活を経て舞台美術の制作会社に就職、その後、北海道支店への転勤をきっかけに三十八年間北海道で生活されています。

高校時代はバレエ部に所属され、「特に一本松へ続く裏の山道から振り返り見る緑の盆地風景と青い空は、永遠の青春の郷愁を繋ぐ風景で忘れられません」とのこと。

交通、通信手段が発達した日本では、「遠くへ来たなあ」という実感はありませんとおっしゃる塚本さんですが、これからの季節は特別のよう、北海道の冬の厳しさは格別。冬の凍りつく透明感の中で、旅の情報誌では得られない自然風景を五感で体感して欲しい」と冬の北海道の魅力についてお話をいただきました。

現役山高生の皆さんには、「受験だけの目先の不幸な時間だけでなく、ちよつと未来の自分のために、友と語り合える時間を大切に」とのメッセージをいただきました。

退職後も創作活動が続けられている塚本さん。ホームページ「グループ環」には素敵な作品が掲載されていますので、こちらもぜひご覧ください。

## 北海道弟子屈町在住の井口守さん（第5回生）

●弟子屈町  
摩周湖、屈斜路湖、ダイヤモンドダストHPには移住者向けの情報も満載。

弟子屈町（てしかがちょう）は北海道東部、釧路市に隣接する町で、摩周湖、屈斜路湖、川湯温泉を始め、世界遺産である釧路湿原の中継点にもあたる自然豊かな町です。

平成九年に若い頃からの夢である北海道に移住された井口さんは、「大自然のスクリーンが四季の色をまとう美しさは、何ものにも変えがたく、その豹変の様はとにかく劇的」と北海道の自然の美しさについてお話をいただきました。

北海道はご存知のとおり新鮮な魚介類も豊富で、美味しいものが目白押しですが、もう一度たべたい郷土料理をお伺いすると、「兵庫の松茸づくしの料理」との答えが返ってきました。なんでも北海道では松茸が採れないようで、松茸の香りの向こうに見えるのは、ふるさととの遠い記憶でしょうか。

最後に全国の卒業生の皆様にメッセージをいただきました。「もしもスローライフをお探でしたら、豊かな自然と安い生活費、ライフスタイルの選択肢の幅が広い北の大地をおすすめします！」。



●札幌市…北の大都市、2月のさっぽろ雪祭りは余りに有名。



沖縄県南城市在住の川崎吉正さん（第15回生）

川崎さんは、高校卒業後に大阪にて就職。沖縄や福岡での勤務を経て、七十四年から沖縄に在住されています。その後独立し、自動車用品の会社を経営されていますが、人生の礎を築くこととなった最初の就職をサポートしてくださった高校時代の恩師は、米田誠一先生と話していただきました。

そんな川崎さんに沖縄の魅力を教えていただきました。「悠久の歴史をはぐくむ原生林を始め、ヤンバルクイナやノグチゲラなどの天然記念物、ラムサール条約登録の本島湿地などなど、夏を迎えると琉球列島全域がエメラルドグリーンに覆いつくされます。また琉球列島は亜熱帯気候で高温多湿で、それに打ち勝つ食文化として、特に沖縄そ

ばは独特のもので、各店が門外不出のレシピでその味を競っている」とのことでした。

そんな川崎さんの思い出の風景は、高校受験の日、初めてみた山崎高校の校舎。白亜の建物が朝日を受けて輝く様子は、今でも鮮明にふみがえるそうです。

現役の山崎生、特に来春卒業の三年生へは、「学生生活と社会生活は全く異なります。社会人は毎日が精進。毎日毎日の精進の積み重ねが大切です」とのメッセージをいただきました。

川崎さんは写真コンテストにも数多く入賞されており、貴重な野鳥をテーマにした写真をインターネットでも見ることが出来ます。川崎さんは、今回沖縄のパンフレットや新聞など、貴重な資料を提供していただきました。



南城市

●南城市

市花はハイビスカス。  
海と光と緑あふれるまち。

19524

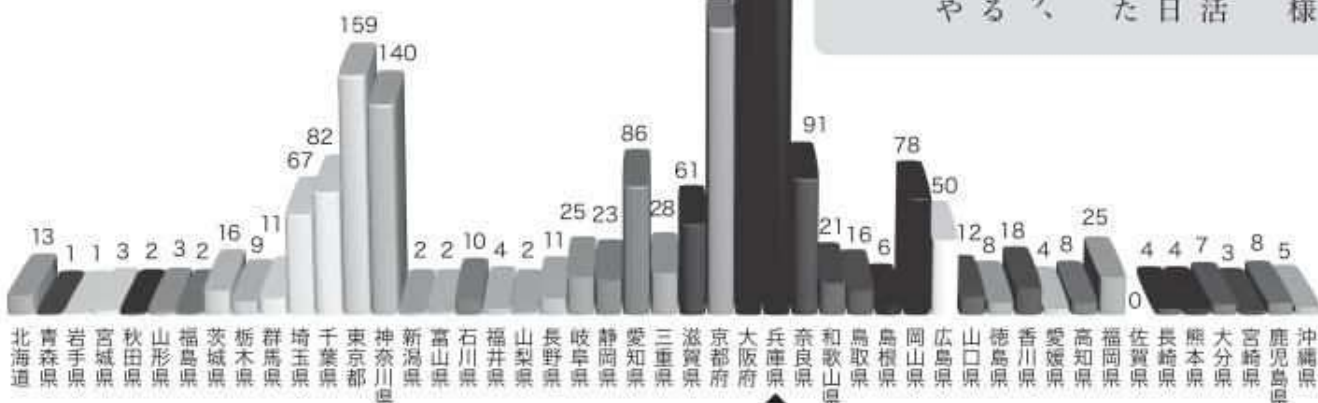
特集はいかがでしたか。

今回ご協力いただいた3名の方にこの場をお借りして、改めて感謝を申し上げます。ずらりと並んだ県名と卒業生の数、残念ながら全国制覇とはなりませんでした。全国各地の同窓生おひとりおひとりのご活躍を想像しながら、同窓生の「つながり」を大切にしたいという気持ちを新たにしました。

同窓会事務局では、今後も全国各地の皆様からの近況報告や高校時代の思い出話など、楽しい情報発信していきたいと考えています。次回は青森県と鹿児島県に在住の同窓生の方から、地元の旬の情報や近況報告、高校時代の思い出話などをお伺いしたいと思いますので、同窓会事務局まで情報をお寄せください。〈文責…編集委員〉

857

190



# 回生だより



〜元気ですごしています〜

## 元気に同窓会

第16回生 吉岡政純

還暦を迎えた時に初めて催された学年同窓会。一二名の参加があり大盛況の中でお開きとなった。各組三〜五名の世話人が選抜され、それぞれの協力と同窓生一同の意欲の現れでした。その時の反省会で①世話人会を毎年開催（大栗・姫路・京都・神戸持ち回り）近くの参加しやすい会場に参加者を募り催す。また②学年同窓会は五年に一回催すことにした。既に学年同窓会二回、世話人会八回実施され旧交を温めている。

引き続き皆様と元気な顔を合わせ、高齢社会を謳歌しましょう。次回学年同窓会は平成二十七年年度の予定です。

## 満天の星

第14回生 安積良久

卒業から四十九年、会社を退職して六年になる。九年前に千ヶ峰の麓に小さな農園を借り、野菜づくりに精を出している。先日、夜十時頃、ホタルを見に散歩に出た。杉林のあちこちで小さなヒメボタルが忙しくチカチカと光る。子どもの頃蚊帳に放して遊んだことを思う。手の平をそつと嗅ぐと懐かしいホタルの匂いがした。見上げると満天の星。星がこんなにいっぱいあったとは。ゆつたりとした時の流れの中で、これまでの私の人生は嬉しいことの方が多かったように思う。もうすぐカナカナが鳴きはじめる。

## 仁川「ゆりの会」と山高

第15回生 島津加代子

阪神大震災の折、四十名近い犠牲者が出た百合野町の地滑り跡の荒れはてた斜面に亡き人々の霊を慰めるべく立ち上がった地元のボランティアグループ「ゆりの会」。四季折々の花々で訪れる人の絶える事のない見事な園になっております。その園のあちこちの立て札に、寄贈山崎高等学校校林業科の文字があり、不思議に思い聞いてみると、六甲森林植物園でみかけて気に入った、それ以来何かにつけて山高さんには色々お世話になり感謝しているとの事で、卒業以来半世紀近くの私にもとても嬉しい話でした。

## 佳境は今から

第17回生 藤原憲男

今年は十七回生にとっては人生の一区切りです。多くが各地の老人クラブに入会し、新しい活動の場を得ました。「高齢者・老人会」のイメージではなく、いよいよ第四コーナーにかかり頑張りは今からです。多くの仲間が自治会や社会奉仕に活躍し頼もしい限りです。また過去の生き方を省みたり、今までにない目線で世の中が見える絶好の時期です。因みに、私は数年前から農業に専念しています。若い時、あ

れほど嫌だった農業に自然の恵みを感じ、人の絆を見出し出しています。同窓会の一員として諸氏の健闘を祈ります。

## まだまだ六十歳

第21回生 牲川 順

私たちは昭和二十五年、二十六年生まれ。還暦を迎え、この四月には定年の年を迎えました。振り返れば早かったです。いろんな事がありました。まだ一線で活躍している者もいますが、一度人生をリセットし、第二の人生を歩んでいる者もいます。私もその一人です。時間だけは十分にあります。まだまだ六十歳、まだまだ健康、まだまだ意欲もあります。「今日はこんな日だった」と他人に誇れるような毎日を送っていききたいと思っています。

## 同窓生の繋がりに感謝

第22回生 秋久澄子

息子が岡山で社会人になって三年目を迎えました。営業を担当しているのですが、取引先の会社は今春、大阪から転動してこられた方があり、何度か営業に伺っている内にその方が山崎高校の先輩だということが判りました。それからは、とても引き立てて下さるようになり、息子はとても感謝して



おります。その話を聞いたとき、私も親としてとても嬉しくなりました。その同窓生の方のご厚情がとても有難く感謝、感謝です！

## ふるさと再考

第23回生 藤井哲郎

卒業してはや四十年。私自身もこの地域を取り巻く環境も昔とずいぶん変わったと思います。自分の子供たちと話していると、「山崎の山や川の自然が大変素晴らしい」と言います。私にとっては何の変哲もないただの田舎の風景に過ぎなかったのに、子供たちの思いがけない言葉に大変驚きました。

私たちの若い頃は、この地域をより都会化することが発展と考え、そこに豊かさなり喜びを求めました。しかし今の若い人たちはもともと山崎にあつた本場の「良さ」を求めています。それは都会に住む人々も同じだと思えます。農家の直売の野菜売り場が大盛況だったりするの、その一つの表れだと思います。

私たちの役割は、山崎の良さを再認識して、すばらしい自然をもったこの地域に、よりたくさんの人達が訪れてもらえるようにすることではないかと思うのです。そして山崎で育った若い人たちにも故郷で暮らしたいと思ってもらえれば、これこそ地域の活性化に

なるでしょう。周りの豊かな自然や古き良きものを活かした町づくりを私たちの世代が考えていく時代が来たように思います。

## 一期一会

第25回生 川原一郎

母校山崎高校を卒業して早や三十八年が経ちましたが、高校時代の記憶と云えば初めての啓明寮での寮生活、そして下宿生活、入学直後の明石朝霧寮で実施されたオリエンテーション等色々ありますが今振り返ればどれもこれも社会人となる為の第一歩であつたと実感致します。

現在地元の金融機関に勤務しており、同窓生の方々には日頃よりお世話になり感謝しております。高校時代に学んだ「一期一会」の心得を基本に今後も同窓生のみなさまをはじめ地域の皆様と接していきたいと思っております。

## 今も生き生きと

第26回生 大成 巧

昨年の夏に「もし・ドラ」(注)という本を読んで、昭和四十六年の山高一年生に戻ってしまいました。

その夏、山高野球部は兵庫県大会で快進撃して準優勝、私は生徒会からの

応援団リーダーの一人として何度も「生徒会歌」を叫びました。山高応援団は何と一位で表彰され、野球部と共に町役場から高校まで町内をパレードしたのです。

山高での部活動・体育祭・文化祭・修学旅行・生徒会活動は、今も生き生きと蘇ります。クラス毎に定期的に集まる同窓生は、その思い出で盛り上がり、みんなを元気にしています。

## 回顧録

第29回生 堀谷 徹

卒業後早三十数年が経ち、その間を回顧すると、バブル崩壊に始まりITを軸とした急速な情報化の進展、核家



高校を卒業してもう三十年以上が過ぎました。大学生活を経て地元に戻ってきましたが、最近帰ってこない人が多いのか、子どもの数が極端に減って先々が心配になってきます。

高校時代の事といつても、もうぼんやりとしか思い出せなくて、でも人並みに楽しかった。三年前に同窓会をしました。本当に久しぶりの人も多く、みんな「おじさん」「おばさん」になっていましたが、顔を見た瞬間に三十年の時間が戻った感覚で幸せなひと時を過ごせました。同級生は死ぬまで同級生。帰ってきてよかったと思っていま

族化の加速、政権の交代、そしてエネルギー資源の再考等、生活環境は一変した。然しながら高校球児が仲間と共に同じ夢に向かい必死で白球を追う姿は、当時と何も変わらず今でも人々に感動を与え続けている。今後も「仲間と共に本気で汗を流す姿」は、不変的に人の心を動かすはずである。

今君達に芽生えているこの「宝」を潜在的に持ち続け、ぶれることなく、これから君達を襲うであろう大きな社会の荒波にうまく立ち向かって欲しい。

## 思い出

第30回生 片山森也

※(注)「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」。



近況報告や日々の暮らしなど「回生だより」へ皆さまの身近な原稿をお待ちしています。

## チャレンジ

第32回生 谷笹利浩

今年は未曾有の大震災があり、多くの方々が親しい方や家族を亡くされ日本中が深い悲しみに被われました。その中【なでしこジャパン】が快進撃を続け遂にはW杯世界一というすばらしいタイトルを手に入れ、私たちもたくさんさんの元気と勇気をもらいました。

平成七年に震災に見舞われた神戸では、【第一回神戸マラソン】が十一月に開催される運びとなり、私は四十代最後の年に運よくこの記念すべき出場チケットを手に入れることができました。なでしこジャパンのように最後まであきらめずに神戸の街道を25kmを完走することを楽しみにしています。

## 出会い

第34回生 亀井俊彦

最近、うれしい出会いがあった。栗市の広報で「テニススクール・開催！」の記事をみて、少し目立ってきいたお腹をなんとかせねばと奮起して申し込んだ。当日、会場に着いてすぐに誰かに呼ばれた。香西くん。名前を思い出すまでに少し時間がかかったのは、ぼつちり出たお腹のせいだった。高校時代にバレーで共に汗をかいた面影はなかった。しかし、レッスンを始

めてみると、フットワークは少し衰えたものの、球感はずがと思わせるものがあった。高校を卒業してからも、子供達のバレーコーチや子供の部活の練習とスポーツに関わっているらしい。指導してくださったコーチにも驚いた。なんと、高校時代に体育でテニスを教えて頂いた久保先生だった。今でも山崎テニスクラブに所属して現役でプレーされているらしい。いつまでも先生のように元気でありたいものだ。

高校を卒業して三十年。今年もまた新しい出会いがあった。何年たっても同級生やお世話になった先生方との出会いはうれしいものだ。地域に根付き、地域で生活していくことが大変な時代になってきたが、こんなうれしい出会いがあるからこそ、生まれ育ったこの山崎町でこれからも頑張っていこうと思う。

## 変わらない光景

第41回生 三浦克幸

私は父の跡を継いで肉屋をしています。よく学生さんがコロッケを買いに来てくれます。ここで一息ついてまた帰路につくようです。春が来ると顔ぶれは変わりますが、この光景は変わりません。

帰省の折に懐かしさのあまり、また寄って下さる方もいらつしやいます。

嬉しい限りです。

私が高校時代に寄っていた店は大概なくなりました。それは寂しいものです。厳しい時代ですが、商いが出来る事に感謝して頑張っていきたいと思っています。

ぜひご来店下さい。頑張っているうちに(笑)。

## ある夏の午後

第47回生 衣笠曉智

毎日、相変わらずの猛暑が続いていますが、同窓生の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

先日の山崎納涼夏祭りの折に、「山高街の駅」のブース作りを手伝う機会がありました。話を聞いてみると、現生徒会執行部を中心に手作りのお菓子や花台等を販売するとの事。

月に数回、御菓子司あさき旧本店にて開催していて、八月四日には神戸に支店を出したそうです。商店街を通る時に開催していましたら、寄ってみては如何でしょうか。

## 日々学んでいく喜び

第62回生 坂井詩歩

大学生活も二年目を迎え、同じ志をもった仲間と日々切磋琢磨しています。最近ではキャンパス実習において子供達と二泊三日を過ごしました。たった

三日でも様々な経験によって子供達に感動や発見が生まれ、心に変化が起これり、成長していることが心や体で感じとることができ、自然と触れ合う野外という社会教育の素晴らしさを実感しました。その中で、子供はスポンジのように良い事も悪い事も私達の姿、言動を手本にし吸収していくことを改めて深く実感しました。教師を目指していく中で子供をプラスに変えらる大人、子供に負けないくらい常に明るく笑顔でいられる大人になれるよう日々自分の課題を見つけ、前向きな姿勢で進んでいきます。

## 現況紹介

第63回生 小寺大地

私が大学に入学して半年が過ぎようとしています。現在親元を離れて一人暮らしをしています。

生活をしていて大学と高校での大きな違いは、自己責任において行動しなくてはならないという事です。振り返ってみると、私が高校の頃は、親任せにしていた事が多かったです。自分で理解しながら様々な選択を行い生活する中で、もっと自分で出来る事は自分でしていればよかったと反省しています。山崎高校でよき友達や先生に恵まれたおかげで大学でも人とのかわりを大切にして、楽しく過ごしています。



特集

# 山高 街の駅

山高をより魅力ある学校に。  
そんな思いから、生徒のみなさんによる  
活動の場が開かれています。

生徒達、自らの手で。  
立ち上げへの軌跡と喜び…。

第64回生 八木啓太

私は、「山高街の駅」の初代駅長を勤めさせていただきました。山崎高校として初の試みであるこの活動の中心となって働いてきました。そこでは、生徒自らが、企画、運営、商品製造、商品販売それに店内のデザインなどを行ってききました。また、季節の出し物や、「山高街の駅」として外部の催しへ参加することもありました。そのなかで、私が一番印象に残っていることは、「出る杭大会」に参加し、初出場ながら二つも賞を受賞したことです。この大会は県内の様々

な団体が、長所を披露する大会で、私たちも「山高街の駅」を披露しました。

私は今、駅長を引退しましたが、今後も「山高街の駅」を宣伝していきたいと思っています。

同窓会の皆様も是非一度「山高街の駅」にいらして下さい。

いろんな企画がもりだくさん。  
ぜひ、お越しください。

第65回生 岡田ちなみ

私たちが運営している「山高街の駅」では、生活創造科の生徒が作ったお菓子や、森林環境科学科の生徒が作った木工製品などを販売しています。お菓子は大変人気があり、いつも開店してすぐに売り切れてしまいます。木工製品も、どれもすばらしい出来映えで目を見張るものばかりです。そのほか、各クラスや部活動の作品などを展示したりしています。クラスの出し物はどれも楽しいものが多く、部活動の作品には思わず感嘆の声をもらっています。更に子供達にも楽しめるように、生活創造科の生徒と一緒に作品を作るコーナーがあったり、ジェンガやオセロゲームなどで遊べるコーナーも

あります。店内の雰囲気は明るく、気軽に生徒達や先生方と話すことができます。

私は、この「山高街の駅」を通して、地域の方々と間近で触れ合う楽しさを知ることができました。月に一、二回の開店ですが、どうぞお立ち寄り下さい。

世代を越えて、みんなが  
集える場に。

第65回生 吉岡真生人

山崎高校では、僕たち生徒会役員をはじめ、森林環境科学科や生活創造科の人たちなどの協力によって「山高街の駅」を運営しています。普段は山崎商店街での活動が中心ですが、八月には神戸の県庁前で店を出させてもらいました。クッキーや木工製品などを売りました。また、ランプやジェンガなどを持って行き、小さい子供とも遊んだりできるようにしました。たくさんの方が来てくださり神戸での街の駅も大成功でした。この経験を生かし、これからより一層街の駅をよくしていきたいと思っています。みなさんも一度、「山高街の駅」に来てみて下さい。



園児へ折り紙指導をしました



「山高街の駅」神戸店も開催



様々な作品が出品されています

歴史と実績ある部活動の数々。  
毎号、運動部&文化部より1クラブずつご紹介  
いたします。



## 活動の紹介 Club Activity

### 部活動紹介「文化部」

## 男子バスケットボール部

「応援してもらえるチームに」  
メンバー全員が一丸となって挑む活動の日々。

僕達、男子バスケットボール部は、一年生九人、二年生八人の計十七人と顧問のギャブ先生と春名先生でがんばっています。

夏の新人戦では惜しくも香寺高校に負けてしまいました。秋の大会に向けてがんばってきました。日々の練習では、キャプテンの笹山君と副キャプテンの田村君、木南君が率先してチームを引っ張り、がんばってくれています。また、先輩方も丁寧に指導してくださり、とても成長することができました。練習試合では、Bリーグの格上の

チームとも試合をすることができ、よい経験を積むことができました。これからも、練習試合での経験をプレーにいかしていきたいです。そしてこの夏の間、合宿にも行き、普段できない基礎トレーニング等を行いました。この合宿を通して、チームとしての結束力を高めることもできました。

日々の努力のおかげで、十月の西々播大会では一回戦は相生産業高校と対戦し、接戦を制することができました。次の相手は県立大附属高校との対戦でした。自分たちよりもかなり格上のAリーグのチームに対し善戦をし、最終的には20点以上離されてしまいました。が一時は8点差に詰め寄ることができました。この大会での経験をこれから練習や大会にいかしていきたいです。

僕達の目標はCリーグ昇格です。この目標を達成できるようにこれからがんばっていきます。そしてギャブ先生がおっしゃっている「応援してもらえるチーム」になれるようにバスケットボール部一同がんばっていきますので、これからも応援よろしくお願いします。

### 部活動紹介「文化部」

## 食物部

「山高街の駅」の活動や山高文化祭において大きな貢献をしてくれています。その活動内容を紹介いたします。

### 広がる活動の場

食物部 部長 光岡里穂

個人的な活動や校内での活動が多かった中、「山高街の駅」での活動も増え、地元の方々ともふれ合うことができ、たくさんの貴重な体験をさせていただきました。少人数ということもあり、思うようにいかず苦労した時もありましたが、顧問の先生をはじめ、多くの人々に支えてもらいながら今日まで活動が続けることが出来ました。これからも部員一同協力し、おい





しいお菓子を作っていきたいと思っています。「山高街の駅」にお立ち寄りの際には、私たちが作った手作りのお菓子を手に取っていただくと、とても嬉しく思います。

### 文化祭

食物部 会計 原田 真衣

昨年七月にオープンした「山高街の駅」で販売する手作りスイーツを作ることも取り組んでいます。「山高街の駅」では、森林環境科学科、生活創造科の特色を生かして、やまちゃんクッキー、竹炭パウンドケーキ、黒糖クッキーなど、バラエティーにとんだものを

販売しています。

今夏八月四日には、「山高街の駅」神戸店がオープンし、食物部からもたくさん手作りスイーツを販売しました。スイーツは全て完売という大盛況でした。

地元の方など校外の方々に私たちが作ったものを食べていただける機会がなかったので、「山高街の駅」を通してそれが実現出来たことがとても嬉しいです。

### 山高街の駅

食物部 副部長 井口 智絵

「スティックケーキ、めっちゃおいしかったで」私はその言葉を聞



いて心がほっこりしました。食物部は、人数が多いわけではなく、文化祭の食品バザーを作るのはとても大変でした。私たちは、チョコレートブラウニーとチーズケーキ、紅茶とホワイトチョコレートケーキを作りました。自分たちで案を練って、行動に移すということはそう簡単なことではありませんでした。しかし、やりきった達成感とやりがいはずごく感じています。私たちが作ったお菓子で、笑顔になってもらえたら、本当に嬉しいです。

## 協力金のお願い

＊「同窓会便り」は皆さまお一人おひとりの力で発行されています＊

毎年ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この「山崎高等学校同窓会便り」は母校や同窓生の近況をお知らせし、母校の発展と同窓生の御活躍の糧となりますように念じ、発行させていただいておりますが、その費用は皆様方の協力金で運営されています。出費多大の折とは存じ上げますが、引き続きお一人おひとりのご協力を是非お願いいたします。

事務局より



僕たち男子ソフトボール部は、県総体で準優勝をし、全国大会へは行けませんでした。近畿大会に出場することができました。

近畿大会では、一回戦を勝ち、そのまま雨で試合が流れてしまい四校同時優勝となりました。

僕が今まで強い気持ちをもち、プレーし続けてこられたのは、弟や、いろんな部の友達が存在が大きかったです。特に男子バレー部は、弟から試合結果を聞いたりしていたので、大きな刺激になりました。一度、試合を見に行った時、弟や友達のがんばっている姿にとっても勇気をもらったし、

自分自身の練習や試合に対する意識が高く持てるようになりしました。そして男子バレー部の近畿大会出場が決まった時、兄弟で出場できる近畿大会に対する思いも強くなりました。

引退した今、自分には、たくさん支えがあったことを感じています。いろん

な刺激を与えてくれた友達、いつも一緒に練習し全国大会を目指しがんばった仲間、技術面でたくさんサポートしてくださった中藤先生、気持ちが入っていない時や、緊張している時に話しかけてくれた上野先生、ソフトボール以外にも大切なことをたくさん教えていただいた梅本先生、応援してくれた人、そして、家族。家族には、毎日、助けてもらいました。平日には朝練で朝早くに起きて毎日お弁当をつくってくれました。休日には、朝早くや夜遅くに送り迎えをしてくれました。本当にありがとうございました。

今、男子ソフトボール部は新人戦に向けてがんばっているので応援よろしくお願いします。

家族、友人、先生…。

支えの中で掴んだ近畿大会、そして引退後の思い。

男子ソフトボール部 山田 悠平

## 兄と弟 それぞれの近畿大会



男子バレーボール部 山田 浩平

二年連続の近畿大会出場&来年へ向けての意欲、兄の部活動に打ち込む姿を見て。

僕たち男子バレーボール部は、県総体でベスト8に入り、近畿大会に出場することができました。今の三年生が主力のチームになったとき、先生が「今年は勝負の年だ」とおっしゃられました。部員の僕たちも「大会で一つでも上を」と思い練習に励んできました。県総体では、昨年はベスト8だったので、今年はベスト4を目標に頑張りました。しかしベスト4を決める試合で優勝した市立尼崎高校に敗れてしまいました。全国でも強豪校に数えられるチームに先輩達は勝利を目指して挑み続けました。僕もベンチから必死に応援したり、タイムの時には選手のサポートをしたりとできるだけのことをしました。結果はストレート負けでしたが、2セット目には20点以上を奪うというすばらしい内容でした。

近畿大会では、一回戦大阪の履正社高校との対戦でしたが、フルセットの末惜

しくも敗れてしまいました。今僕たちは、先輩達が二年連続して出場した近畿大会に三年連続で出場できるよう日々努力しています。

山崎高校にはもう一つ近畿大会に出場した部があります。それは、僕の兄が所属している男子ソフトボール部です。兄は僕と違いレギュラーとして試合に出場し、活躍をして見事に優勝することができました。

兄は引退をしましたが、現役中にはスランプがあったりしているりと苦労があり、家でも悩んでいる姿をよく見かけました。しかし、努力を重ねた結果、最後は良い成績を残すことができ、「悔いはない」と笑って引退することができました。

兄を見ていて、家族として非常にうらやましく思っています。僕も兄のように笑顔で引退できるようにこれからも努力を続けていきたいと思っています。



## 平成22年度 離着任職員一覧

## 離任職員

| 氏 名   | 教科  | 新所属      |
|-------|-----|----------|
| 寶谷 亮介 | 教頭  | 福崎高校     |
| 坂本 渉  | 事務長 | 農業高校     |
| 西村 郁夫 | 国語  | 相生産業高校   |
| 山田 尚美 | 数学  | 明石南高校    |
| 古結 俊行 | 理科  | 姫路南高校    |
| 奥藤 哲哉 | 英語  | 姫路南高校    |
| 向井 康晴 | 農業  | 佐用高校     |
| 池田 宏  | 農業  | 播磨農業高校   |
| 岸本 成宏 | 国語  | 県立大附属高校  |
| 村上 良幸 | 数学  | 龍野高校     |
| 井上 稔雄 | 理科  | 県立大附属高校  |
| 谷口 正明 | 理科  | 県立大附属高校  |
| 上杉 祝久 | 体育  | 尼崎市立城内高校 |
| 山本 識人 | 英語  | 退職       |
| 吉田恵美子 | 事務  | 姫路工業高校   |

## 着任職員

| 氏 名                | 教科  | 旧所属    |
|--------------------|-----|--------|
| 野谷るり子              | 教頭  | 伊和高校   |
| 藤井 茂樹              | 事務長 | 高砂高校   |
| 鶴谷 光伸              | 理科  | 姫路南高校  |
| 上月さやこ              | 国語  | 新採用    |
| 唐田 弘美              | 英語  | 新採用    |
| Nguyen Doan Gia Vu | 数学  | 新採用    |
| 西川 雅之              | 農業  | 播磨農業高校 |
| 橋本 光広              | 農業  | 播磨農業高校 |
| 井口加奈子              | 国語  | 新採用    |
| 後藤 紀之              | 理科  | 新採用    |
| 西澤 直彦              | 体育  | 姫路東高校  |
| 中野 宏哉              | 英語  | 琴丘高校   |
| 清瀬 智子              | 事務  | 姫路東高校  |

## 平成22年度 卒業生の進路状況

| 国公立大学                                  |    | 私立四大    |     | 私立短大            |    |
|----------------------------------------|----|---------|-----|-----------------|----|
| 鳥取大                                    | 2  | 大谷大     | 3   | 神戸女子短大          | 6  |
| 鳥根大                                    | 2  | 京都外大    | 2   | 産業技術短大          | 4  |
| 岡山大                                    | 1  | 京都産業大   | 6   | 兵庫大短大部          | 4  |
| 広島大                                    | 1  | 京都女子大   | 2   | 他 合計            | 31 |
| 香川大                                    | 1  | 立命館大    | 4   | <b>一般専門学校</b>   |    |
| 福岡教育大                                  | 1  | 龍谷大     | 6   | 大阪ビューティーアート     | 2  |
| 兵庫県立大                                  | 3  | 大阪経済大   | 3   | 日本栄養            | 5  |
| 鳥根県立大                                  | 1  | 大阪工大    | 3   | 大原簿記            | 4  |
| 新見公立大                                  | 1  | 大阪電気通信大 | 5   | 大阪スクールオブミュージック  | 3  |
| 尾道大                                    | 1  | 関西大     | 1   | トヨタ神戸自動車大学校     | 2  |
| 広島市立大                                  | 1  | 近畿大     | 10  | 姫路情報システム        | 7  |
| 下関市立大                                  | 1  | 摂南大     | 5   | 他 合計            | 54 |
| 山口県立大                                  | 1  | 神戸学院大   | 8   | <b>看護医療専門学校</b> |    |
| 高知工科大                                  | 1  | 神戸女学院大  | 1   | 相生市看護           | 3  |
| 長崎県立大                                  | 1  | 姫路獨協大   | 3   | 姫路医療センター附属看護    | 2  |
| 合計                                     | 19 | 他 合計    | 141 | 姫路市医師会看護        | 2  |
| 紙面の都合で一部の学校、<br>企業のみを掲載いたしました。ご了承ください。 |    |         |     | 他 合計            | 38 |
|                                        |    |         |     | <b>就職</b>       |    |
|                                        |    |         |     | 株式会社 一宮電機       | 4  |
|                                        |    |         |     | 協同組合兵庫木材センター    | 2  |
|                                        |    |         |     | 他 合計            | 39 |



### 住所異動のある方は

同封の振替用紙に貴方の住所等が記載されています。内容に変更がございましたら、用紙にお書き込みいただき、そのままFAXいただくか、お電話ください。用紙右のQRコードからも住所等の変更が可能です。

TEL 0120-66-7754(平日 9:00~16:00) FAX 0120-81-2299



今後、同窓生同士のつながりが、より早く円滑なものになるよう、インターネットの活用を考えています。フェイスブック&ツイッター等、お詳しい方、ご協力をお願いします。

お便りや、感想をぜひお聞かせください。お待ちしております。

### 平成22年度

### 同窓会便り発行収支報告書

#### 収入の部

新聞発行協力金 2,222,707 円

#### 支出の部

印刷及び封入費用 1,793,261 円

送料 1,023,840 円

消費税 140,855 円

振込手数料 840 円

合計 2,958,796 円

※不足分は一般会計から補填

### 編集後記

ここ近年は、もみじ山での紅葉がニュースや口コミで広まっただけで、非常にたくさんの方が山崎を訪れるような気がします。県外ナンバーの車をはじめ、家族連れやリュックを背負った方々の姿が目立つ光景は、山崎が紅葉の名所になった感慨を覚えます。

都市部に人口が集まる傾向が続き、人々が郷土を去っていく現実には寂しいですが、少しでも山崎高校や、思い出の人々、町に思いを馳せていただけるような紙面になればと思っています。

今号は「親しみ・興味を持って読んでいただけるように」と、若い編集スタッフを中心に、「読みやすい紙面」「新しい企画」などと工夫をいたしました。いっぴく、力が入り、すばらしい「同窓会便り」ができたと思画自賛(失礼)いたしておりますが、終わってみると経費が予定を大きくオーバーしてしまい真つ青になつております。皆様の暖かいご支援でオーバー分を補えたらと勝手なことを考えております。協力金の方、例年にましてよろしく願ひいたします。

皆さまのご感想、お便りをお待ちしています。

〈編集部一同〉